

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 12 月 20 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104369		
法人名	社会福祉法人 広島光明学園		
事業所名	グループホーム光明牛田		
所在地	広島市東区牛田新町3-20-15 (電話) 082-211-3040		
自己評価作成日	平成27年9月2日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3470104369-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成27年12月16日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

①保育園が事業所の階下にある為、入居者と、園児の触れ合いの機会を設けている。又、保育園との交流行事に力を入れている。 ②隣接するグループホームとの交流行事に力を入れている。 ③外部の行事に参加し、地域との関わりを積極的に行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所が、ここ1年間頑張ってきたことは、第一に、前回の外部評価の「目標達成計画」で策定した、個別的な外出支援である。行事での外出支援はできているが、それに参加できない利用者の日常生活における買い物や散歩等の支援が行えていない状況がある。それに対し、個別に要望を確認し、ケアプランに位置づけ、外出の支援に努めた。例えば、毎週土曜日に「自由デイ」を設け、不動院への散歩や買い物等を順番に取り組んでおり、利用者にも好評である。例えば、墓参りを計画するも1回目は失敗したが、2回目の挑戦で実現し、利用者も「心がすっと下りた」と安心された例もある。第二は、防災対策の強化である。毎月、避難訓練を実施し、日頃からの防火意識を徹底するようにしている。訓練も単なる移動だけではなく、臨場感を持った危機意識を植え付けるため、職員同士で声掛けして煽ったり、裏山からの土砂災害に備えて、人を背負って階段を上るなど、実践的な内容となっている。更に前回の外部評価でも指摘のあった、地域との防災協力体制作りである。事業所は地域の緊急退避施設にもなっており、地域との災害時相互支援体制作りを進めていきたい意向もあり、地域の自警団との関係作りに取り組んでいる。
--

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人全体の理念、三宝一如とホームの理念そのものが地域密着をめざしているので、行事等を通じて実践につなげている。	事業所理念は、開設時に法人により作成され、朝の申送り時に唱和している。現管理者の下、職員会議で理念の三本柱を再吟味し、より具体性を持たせるために、例えば、地域行事に参加できなかった職員は、地域住民に挨拶をして、地域交流を図るようにする等、職員間で共有化した。その2か月後、職員にアンケート実施すると、理念の意識化が芽生えており、浸透度を検証することができた。今後も3か月毎に評価をし、実践につなげる予定である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の行事に参加させていただいたり、回覧板等で地域のことを知らせてくださったり、何かあったときは声をかけていただいている。定期的に買い物日を設け、地域のスーパー等に外出している。	事業所は、町内会の回覧板や運営推進会議での情報交換もあり、ほおずき祭や盆踊り等に利用者も参加し、地域行事に積極的に関って、地域に溶け込む努力をしている。また、併設の保育園と合同開催する「地域ふれあいの集い」には、百余名の地域住民の参加があり、相互交流・世代間交流も為されている。更に地域の高齢者や障がい者等を対象に「無料光明福祉バス」を巡回運行し、地域の移動支援に寄与している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域行事、法人行事に参加することで、地域の人々との交流を通して、認知症のご利用者様と触れ合って頂く事で、認知症の理解や支援の方法を検討して、交流を深めている。運営推進会議の際にも、地域の方をお招きし、認知症についての話等を行って、地域に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	町内会長、ご家族、民生委員、地域包括支援センター、他事業所の職員の意見、助言を取り入れサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、地域住民代表として地域包括支援センター職員、民生委員、時に消防署職員、警備会社職員、地域医療従事者をメンバーとし、併設事業所と合同で定期的に開催されている。会議では、事業所の現況・行事報告等が、一定の意見交換・情報交換と共に行われ、サービスの質の向上に繋げる努力が為されている。また、開催日に合わせて避難訓練を実施する工夫も見られる。	ただ、会議は家族の参加も少なく、議事録の要望・助言欄の内容を見ると、「サービスの実際・評価への取り組み状況等」に対する意見交換が不明瞭である。従って、可能ならば、開催日時をできるだけ多くの家族の参加が得られる日時に調整し、参加できない家族にも情報共有が図れる様、議論の内容を具体的に記載して、中身の「透明性」を高める案等、ケアの質の向上が検証できる取り組みを期待したい。
5	4	市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	特に防災関係において、避難訓練等で消防署との連携と指導を受け、利用者様の安全確保に努めている。又、個々利用されている制度の担当者と連絡をとる事もある。	運営推進会議には、毎回、地域包括支援センターの職員が参加し、情報の共有化が図られており、会議の開催報告書も市に提出している。また、地域包括支援センター主催の「認知症サポーター養成講座」に、オレンジアドバイザーの資格を持つ事業所職員が講師として協力している。更にケアネット（地域包括支援センター主催の情報発信組織）で、事業所のサービス紹介をしたこともある。防災訓練等で消防署との連携強化にも取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関には施錠はしていないが、自動ドアに工夫を施し、モニターによる見守りができるよう、工夫をしている。施設内、外研修を実施し、研修で得た情報を職員全体で共有している。	法人全体で「身体拘束排除マニュアル」を策定し、内部研修を通して、職員は「身体拘束はしない」重要性を認識し、具体的なケアの中で実践を重ねている。例えば、日中は玄関を施錠せず、センサーを設置して、見守りを行っている。また、明らかな拘束とは言えないが、「言葉による行動制限」や「坐りっ放し」など「不適切な」ケアを意識することが出来る様に、管理者は定期的な声掛けを職員に行い、気づきを促すようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修や担当者会議、マニュアルを整備し、職員が共有するようにし、利用者様の、人生観を尊重するように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職場の研修や地域での講習会に参加している。市町村担当者を訪ね、制度について説明して頂き、理解を深めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に重要事項の説明をさせていただき、理解と納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が来園された際は、声かけをさせていただき、利用者様に対しての気づきや要望などをお聞きして、プランや運営に反映させている。	利用者の要望等は、日頃の職員との会話から把握し、家族からは、面会時に職員や管理者が積極的に聴くように努めており、介護記録にそれを記載し、職員間で共有している。外出の機会を作って欲しいという家族からの要望を、個別的な外出支援のプランに繋げた例がある。法人全体で毎年、満足度調査アンケートを実施し、サービス評価の場を設けて、運営に反映させている。また、年1回の年末の家族会でも意見、要望を聴く体制がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	担当者会議、アンケート、ケアプラン、利用者様の状況表、介護内容チェック表等を作成し、反映させている。状況に応じて内容の変更等を実施している。	毎月の職員会議や随時の面談や、毎日の申し送りで意見を聞く機会を設けている。「申し送りノート」を介して、職員と管理者の提案のやり取りもある。また、個別アンケートを実施し、職員からの意見を引き出し易くする仕組みもある。職員会議では、理念の再吟味や自由デイ（土曜日の買い物等の外出）の実施の可否、車いすの毎月点検の可否、また、掲示板を設置して、申し送り事項を貼っていく案などが、検討され、実施に至った経緯がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	希望休暇をシフトに反映させ、業務に対してストレスを溜めないようかつ、労働時間についても、時間外勤務が避けられるよう配慮している。又キャリア段位制度を活用し、職員が業務に対し、目標意識を持ち、向上心が持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個別面接を実施し職員個々の得て不得手を把握し、指導、アドバイスを実施するよう努めている。OJTの実践にて介護技術の向上を図り、病院等の研修に参加し知識・技術の向上に繋がるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	施設外研修に参加させていただき、他事業所の生の意見交換を参考に行っている。また、研修施行等で、他の部署との連携を図り、サービスの向上に取り組んでいる。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	基本情報を理解し、インテーク面接からアセスメント、担当者会議を通して関係作りに努め、要望が引き出せるよう努めている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の立場を理解し、悲しみ、苦しみ、悩みを共有するように努め、安心して頂けるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者様やご家族様から要望を受け、医療機関や訪問歯科の往診、訪問マッサージの利用等、他サービス業者との連携を密にするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様の状態が厳しくなっている状況の中、介助に苦慮する面もあるが、介護内容チェック表を作成し、ご利用者様ができることを見つけ、日常の中でそれを実践して頂き、ご本人への自立支援や喜びにつなげている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設を自宅としてとらえ、ご家族が出入りを遠慮されないよう努めている。居室等で、ご一緒にお茶を飲んでいただいたり、ご家族の方にも楽しんでいただけるよう努め、共に支えていける関係作りを図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	法人行事、施設行事を通じて、利用者様のご家族、友人、知人、地域の方々にも来園していただけるように努めている。	地域行事に参加したり、地元の医療機関に受診したり、買い物に行っても、知り合いがおり、馴染みの関係が継続している。介護度の重たい利用者も、行き先で挨拶を交わされている。また、元消防署長だった利用者は、事業所の防災訓練の際、昔取った杵柄で、思わず訓練の指揮を執ったこともあった。更に退居した利用者が家族会に参加して、旧交を温めた例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ホールのテーブルで、他のご利用者様と関わっていただいたり、レクリエーションや外出行事等に共に参加して頂き、隣近所のような関係を大切にし、皆で支えあっていけるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	行事などを通じて、常に関わりを大切にして、相談や支援を心がけている。実際に、ご利用されていたご家族様からの相談にも乗る事もある。ボランティアとしても、ホームの行事に参加して頂いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	何かあれば、担当国会議、施設内会議を実施し、検討している。ケアプランにも、本人の自由な行動を見守る支援を取り入れるケースもある。又、3ヶ月ごとの利用者状況表の変更の有無も検討し、実施している。	利用者毎に担当を決め、職員は利用者の気持ちを大事にしながら、ゆっくり話す時間を作り、その方の行動を理解するよう努めている。必要があれば、担当国会議等でそれ等の情報を検討し、プランに繋げて、「利用者状況表」で定期的に評価している。例えば、鉛筆で何か落書きをしていた利用者に塗り絵を試したら、皿の広告チラシに花を描いた。その方の生活歴を見ると、元々絵を描くことが好きだった例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者様との会話やご家族からの情報を職員で共有するとともに、生活環境、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々のモニタリング、毎月の現状報告書を作成することにより、利用者様の抱える問題などを分析し、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	困難な場合においても、出来ることからはじめていき、利用者様に応じた対応をつくりだしていき、プランに反映させている。職員のユニット化により、話し合いの時間を多く持てるよう努め、現状に即したプランを作成している。	モニタリングについては、毎日、日勤常職員が「介護内容チェック表」に記入し、実施している。また、それらの情報と事前に聞いた家族からの情報を計画担当者が集約し、担当者会議を開催している。会議には担当職員・管理者兼計画作成担当者、時に訪問歯科医が参加し、短期目標は三か月、長期目標は半年毎に見直しをしている。それに基づき、例えば、世話好きな方には、他の利用者のヤクルトの蓋を全部開けて、渡してあげる等、利用者が達成感を実感できる介護計画に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録の他、担当者会議、施設内会議、ひやりはっとでの情報を基に、現状のサービス内容の見直しを実施している。できることを介護内容チェック表にし、介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族との連携や会話を大切にし、時には、ご家族様と外出して頂き、一緒に支えあっていけるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	隣接する保育園の園児さんとの触れ合いや、行事に参加することにより、生活のメリハリを持っていただき、マンネリな生活にならないように努め、日々の暮らしを楽しんで頂けるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者様が入居されるまで行かれていた病院と、地域の主治医の月1回の往診、電話連絡等により、充実した医療の支援に努めている。	利用前の主治医の受診継続も可能だが、殆どの利用者は事業所の協力医を主治医としている。協力医からは、月1回の継続的な往診と共に、随時の受診も可能であり、適切な医療が受けられる体制となっている。また、協力歯科医から週1回の往診もある。認知症に関しては、市の西部認知症疾患医療センターでの受診となっている。受診の際は、殆ど事業所が家族に代わり通院介助を行い、その分しっかり面会に来て頂きたいという姿勢である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師による健康チェックの他、身体状況についての助言や、時には、看護師のから医師への連絡等の対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の主治医と医療連携室の相談員との連携について、ご家族と協議し、万が一に備えての関係作りを行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医療分野以外は、当施設において出来る限りの支援を検討し、医療行為が必要になった場合には、入院先または他の選択について、ご家族、法人の他事業所、地域包括支援センター等とともに取り組んでいる。	利用開始時、入所契約書の「医療的な対応に関する指針」にて、事業所としての基本的な方針を説明し、了解を得ている。「看取り」は行わないが、重度化した際には、家族・医師・事業所と話し合いを行い、できる範囲（「介護施設として受け入れが可能と判断される場合」）で適切な支援を行う考えである。基本的には、「入院」等により、十分な医療支援体制に取り組むことを、その方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	夜間帯の急変を想定し、当施設だけでなく隣接する施設職員との連携を取れるよう訓練し、実践力を身につけるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	月1回の避難訓練を実施し、隣接する保育園と共に、常日頃から危機管理を心がけている。夜間の避難訓練も、年3回実施している。	夜間想定避難訓練は、併設のグループホーム・通所介護事業所と合同で、また日中想定の場合は保育園を加えた4事業所合同で毎月実施している。年に一度、運営推進会議の日には消防署・警備会社の立ち合いの下、実施し、利用者の搬送手段も踏まえた実践的な訓練となっている。事業所は地域の緊急退避施設にもなっており、土砂災害を想定した訓練も実施すると共に、地域との災害時相互支援体制作りを進めていきたい意向もある。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉遣い、声掛けのしかたはもとより、その際の表情も大切に対応している。	特に入浴時や排泄時などの言葉かけでは、誇りやプライバシーに配慮している。声の大きさにも配慮するように管理者は指導し、職員に意識的に問い掛けをして注意を促している。また、トイレにおいても、扉を2枚構造にして、利用者が使用中、互いに視界に入らないよう環境的にも工夫している。更に、契約時には約款の「秘密保持・個人情報の保護」に基づいて、留意してほしい事項を相互確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人からの訴えがあれば否定せず、できるように対応、またはご家族からの間接的要望を聞いたりし、自己決定出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様のペースを考慮し、行事等事業所側のペースにならないように注意し、希望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日常は利用者様の好みに合わせるように心掛けている。行事で外出する場合は、身だしなみ、整容の支援をしている。ご家族との外出においては、ご家族様好みの対応をしている。ご家族様が外出の服等を持参されることもある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備、片付けにおいては、出来る範囲で手伝いをしている。	朝食と日曜食は職員の手による。昼食、夕食は1階の厨房で作られ、事業所で刻み食などに食事形態を変えたり、盛り付け、配膳をしている。食事の中で嗜好も把握でき、利用者は食材の買い出し、調理の下ごしらえ等、役割に応じた手伝いを職員と共に行っている。以前、料理屋をしていた男性利用者は力のいる、調理の混ぜ役を担当している。園児と団子を作り、屋上で月見を楽しんだり、地域の祭りの出店では、お好み焼きを3枚食べる利用者もいた。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	給食室から提供されることにより、カロリー、バランスについては管理されている。水分量についてはひとりひとり、職員が把握し、少ない方には表を作成する等、摂取して頂くようにきめ細かく支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科、看護師と連携し、口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	オムツに頼らないように、必要な方には、時間を決めてトイレ誘導を行なう等、支援をしている。	出来るだけトイレで排泄してもらうように、排泄記録表や表情・行動により、各人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。トイレには、可動式の手すりも設置され、職員は、プライバシーに配慮したケアを行っている。現在ポータブルトイレは使用していない。利用者が出来ることは、本人に行なってもらい、出来ない部分を職員が手助けする方針である。更にオムツから紙パンツに改善された例など、自立に向けた支援も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	自然なお通じができるよう、毎日、乳製品の摂取や、運動をして頂くよう取り組んでいる。テレビ体操の実施や個別対応による運動を行う等、予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	時間的な希望等を考慮し極力、利用者様のペースに合わせている。看護師の助言が必要な方は、指示・助言に応じて入浴を行っている。	入浴は、週2回、10時から16時の時間帯を基本に行っているが、状況により柔軟に対応し、利用者の体調や入浴習慣に合わせ、好みの入浴温度や時間に配慮している。入浴準備から衣類着脱・洗身まで自立度に応じ、利用者が自己選択できる様に対応して、職員は作業的な流れにならない様に努めている。また、入浴剤を使用して寛いでもらったり、以前は壁に富士山の絵を貼ったり、入浴を楽しんでもらえる様に工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者様のペースで就寝していただいている。昼夜逆転にならないよう、日中は無理の無いように、運動やレクリエーションを実施し、夜間に安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬マニュアルに従い、確認を徹底し、看護師と連携をとりつつ、服薬事故の無いよう努め、利用者様の变化にも注意するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクリエーションを実施することで、集団での楽しみが個人の楽しみにつながっている。また、個別対応で気分転換等の支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	グループホームでイベント企画を立て外出できるように努めている。また隣接する保育園の園児との交流も増え、外出する機会が増えている。外出の際には、ご家族様の協力も得ている。	日常的に利用者の希望により、生活用品の買い物や食材を購入するため、近くのスーパーやコンビニに職員と出掛けたり、毎週土曜日の自由デイには、不動院等の散歩を楽しんだりしている。また、「ほおづき祭り」や「牛田花田植え」等の地域行事に参加したり、併設保育園の園児と「バラ公園」への合同遠足を楽しむこともある。「花田植え」で刈り取った稲穂を持ち帰り、ベランダのフェンスに吊るして置くと、それを啄むスズメを見て楽しむ利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭に関しては、ご家族が管理されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者様自身の要望があった際は、事業所の電話を利用していただたりして支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様と職員とで季節を感じていただけの物を作成し、廊下、入口等に展示を実施している。所々に花を飾ったり、快適に過ごして頂けるように工夫している。	共用空間は、環境委員会を中心として、基本的には職員の手により、時には利用者の手伝いを交え、毎日掃除が行われ、季節の花も活けて、清潔な居心地良い場所になっている。3階にある事業所は、大きな掃き出し窓からの採光を得て、明るい空間となっている。洗濯物も干してあるベランダは生活感もあり、プランターで栽培したトマト・キュウリ・ゴーヤ等が、食卓に上ることもある。クリスマスのBGMや飾り付けがフロアの季節感を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファ、テーブルの配置を考慮しながら、くつろげる空間作り等の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族様の協力を得て、使い慣れたものや、プレゼント、花などを置き、安全に考慮しながら、居心地の良い居室作りをしている。	居室には、ベッド・エアコンを設置し、ベッドは利用者が、使いやすい機種や配置に工夫している。以前は、利用者の自宅の居室の写真を撮ってもらい、そのように配置したこともあった。居室には、利用者が家で生活していた物をそのまま持ってきてもらい、テレビなど使い慣れた物、また利用者が描いた絵画、かつては本人が作った羽子板等、好みの物に囲まれ、居心地よく過ごせる様にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全確保に努め、必要に応じ、行動の制限をしないよう、安心した生活が送れるように工夫している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム光明牛田

作成日 平成28年 1月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	民生委員・消防署関係・地域住民の参加は幅広く得ているが、サービスを利用されているご利用者様及びご家族様の参加が少ない。	サービスを利用されているご利用者様及び、ご家族様の参加機会が増え、サービスについての意見交換や情報の共有が図れる。	ご家族様ができるだけ、参加可能な日程調整をする。又、参加が出来ないご家族様へ推進会議の会議録を送付する。	1 年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。